

# フロントランナー

(b1面から続く)

## 「縄文杉の風格もつお年寄りがたくさんいる」

ジェフリー・アイリッシュさん 民俗学研究者・土喰小組長

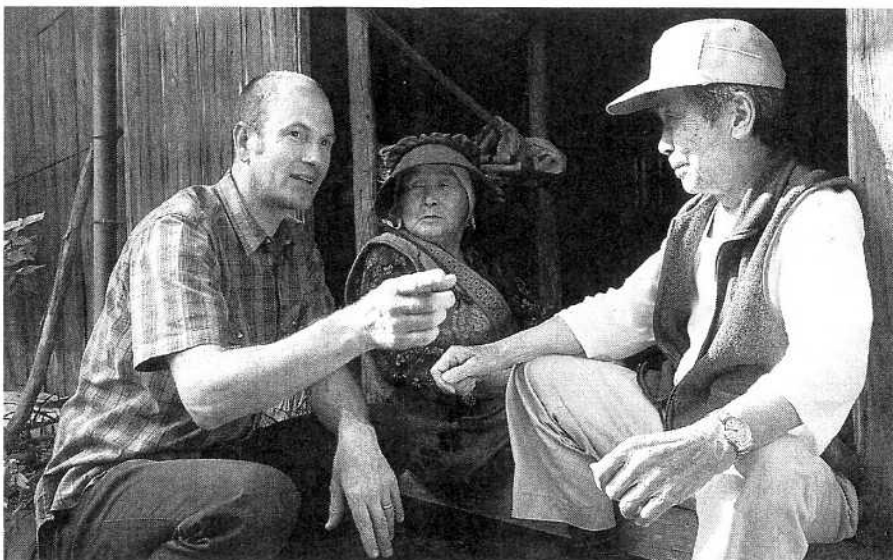
### 人と人をつなぐ力が抜群

「こう言うとジェフは嫌がりますが、アメリカ人の着ぐるみを着た日本人みたい」と南日本放送のキャスター、山縣由美子さんは言う。

ダイオキシン汚染が川辺町で問題になり、灰や土壌を無害化する技術をドイツから導入しようとしたとき、懸け橋になったのがジェフだった。世界的権威のドイツの学者の協力が必要になった。言葉の背後にある文化や住民の思いまで理解し、交渉をまとめた。「誠意と思いやりにあふれ、人をつなぐ力は抜群です。いつまでも鹿児島にいてほしい」

地域活動で縁のある南九州市の君野悦郎福祉課長は「ジェフリーさんが立派なのは、まず自分たちがすべきことから考え始める。行政に頼ろうとしない」。行政に求める前で地域として何ができるか、そこを踏まえて連携の糸口を探ってくるという。

土喰では、農作業で腰や足に無理が出ているお年寄りが多く、寝込む前に予防をと地域が動き、同市は保健師を公民館に派遣して健康体操の指導をすることになった。「自分たちから動かなければ活動は長続きしない、とよく言っておられます」



里山に根を張るお年寄りの知恵は宝物。庭先の語り合いが地域の絆を結び—鹿児島県南九州市

—なぜ日本に興味を？

黒澤明の「影武者」を大学2年のときに見て心が騒いだ。3時間の映画を続けて2回見て、翌日もまた行った。映像が美しかった。日本文学に触れたのもその頃。『ハムレット』で漱石が描いた人間関係はともかく、わかて印象的だった。藤村、谷崎、三島……英訳で読んだけど、見たことのない世界をのぞいた感じで、すべてが発見と驚きの連続でした。

—卒業後、日本企業に。

日本で暮らしたいと思って。清水建設の本社で2年働き、ニューヨークに派遣されました。日本人と私で現地法人を設立しました。5年で従業員は160人になり、人事・法務担当の副社長になりましたが、

### 定置網の船に

—その後、漁師に？

友人の結婚式に出たとき、花嫁の父が下飯島の村長さん。意気投合して「島に来ないか」と誘われ、それから3年たっていました。田舎に行きたいと思っていたので。島に渡ると、仕事は土建か漁師か。建設関係は経験済みなので定置網の船に乗ったのです。ウインチで巻き上げる作業ですが、昔は歌いながら手で引いていたと聞き、漁師の暮らしに興味を覚え、次第に関心は民俗学に。

これは自分の目指した道ではないと思ひ、責任ある立場になる前に退職させてもらいました。

—その後、漁師に？

友人の結婚式に出たとき、花嫁の父が下飯島の村長さん。意気投合して「島に来ないか」と誘われ、それから3年たっていました。田舎に行きたいと思っていたので。島に渡ると、仕事は土建か漁師か。建設関係は経験済みなので定置網の船に乗ったのです。ウインチで巻き上げる作業ですが、昔は歌いながら手で引いていたと聞き、漁師の暮らしに興味を覚え、次第に関心は民俗学に。

—土喰は限界集落で、やがてなくなる、と言われてます。

限界集落というのは、共同体の営みを自分たちでできなくなった状態を言います。土喰は皆が支え、はつらつと機能しています。限界集落ではない。平均年齢が80歳を超え、厳しいことは確かですが、みな生涯現役です。多少の不自由があっても知に出る。農作業ができなくなっても花を育てたり、お墓の掃除をしたり、おしゃべりし、笑う。年齢にふさわしい自然のリズムに沿って、豊かな時間が流れています。ゆっくりですが、みな忙しそうに、張りのある暮らしをしています。

—土喰の人は驚いたでしょうか？

初めは珍しがられたけど、簡易水道の清掃があって、野水タンクに入っただけでした。共同作業は一体感を高め、仲良くなるいい機会です。お年寄りは外見や国籍にこだわらず、人としての思いやりを大切にします。無駄なもの捨て、大事なことを選ぶ知恵を備えているんです。

### 思いやりの心

—その後、漁師に？

友人の結婚式に出たとき、花嫁の父が下飯島の村長さん。意気投合して「島に来ないか」と誘われ、それから3年たっていました。田舎に行きたいと思っていたので。島に渡ると、仕事は土建か漁師か。建設関係は経験済みなので定置網の船に乗ったのです。ウインチで巻き上げる作業ですが、昔は歌いながら手で引いていたと聞き、漁師の暮らしに興味を覚え、次第に関心は民俗学に。



- ★米国カリフォルニア州生まれ。父はスタンフォード大の宗教学教授。中学生まで今のシリコンバレーで育つ。
- ★17歳、飛び級でエル大に入学。日本史を専攻。卒論は「市川房枝と日本の女権運動」。
- ★82年、清水建設に入社。本社勤務後、子会社設立のため米国へ写真家は米国時代。90年、退職して鹿児島県の下飯島で定置網の漁師に。93年、ハーバード大大学院に進み民俗学を専攻。京大留学を経て98年、南九州市の土喰に。
- ★06年に結婚。妻と1男1女の4人暮らし。
- ★著書は『里山の晴れた日』『漂泊人からの便り』『アイランド・ライフ、海を渡って漁師になる』など。

◆次回は、新潟市民芸術文化会館の専属ダンスカンパニー「Noism」の芸術監督、金森稯さんの予定です。

チェックポイント

プロフィール